

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	M.N	学部・学科	国際商学部国際商学科
学 年	2	派遣国	マレーシア
派遣大学	アジアパシフィック大学		
コース名	English Summer Camp		
期 間	2025 年 8 月 3 日～ 2025 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は午前と午後に分かれており、それぞれ 2 時間で途中に 10 分ほどの休憩があった。午前はスピーキングとリスニング、午後はリーディングとライティングの授業が行われ、グループワークやペアワークが中心だった。国籍が異なる人と隣同士になるよう席が決められており、日本人が少なかったこともあり、さまざまな国の人と交流する機会が多かった。

特にロシア人のクラスメイトとは、お互いの文化について話し、週末にどこへ行ったかなどを共有することで仲良くなれた。ペアワークを通じて自然と会話が増え、距離が縮まったと感じる。授業中は、意見交換やディスカッションを通じて、語学力だけでなくコミュニケーション力も養うことができた。

プレゼンテーションでは、4 人グループを自分たちで作り、パワーポイントや Canva を活用して準備を進めた。グループ内の連絡は、WhatsApp や Instagram のグループチャット機能を使って行い、スムーズに協力することができた。授業の難易度は決して簡単ではなかったが、理解できる範囲であり、ペアワークを通じて互いの知識を共有しながら問題を解くことができた。

宿題は毎日出されたが、20 分程度で終わる量だったため、負担には感じなかった。また、OEL というスマホで行う e-learning 形式の課題もあり、自分のペースで取り組むことができた。内容は語彙や文法の復習、リスニング練習などが中心で、授業の補強として役立った。友人の話によると、クラスによって授業の進め方や難易度が大きく異なり、先生による差もあるようだった。

全体的に、実践的で充実した学びの時間だったと感じている。語学力の向上だけでなく、異文化理解や協働する力も身につけることができ、非常に有意義な経験となった。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

ライティングの授業では、文章をただ書くだけでなく、構成の立て方や論理的な展開の仕方を体系的に学ぶことができた。特に、導入から結論に至るまでの流れを意識しながら、自分の考えを相手に分かりやすく伝える練習を繰り返すことで、英語での表現力を高める基礎が身についたと感じている。また、リスニングの授業では、単に音声を聞き流すのではなく、話の要点を効率よく聞き取る方法や、会話の展開を理解する力を養うことを重視していた。実際の講義や会話を想定した練習を通じて、必要な情報を素早く整理できるようになり、理解度が高まったと思う。どちらの授業も、高校までに学んだ英語の知識を土台にした応用編のような印象であり、基礎を確かめながら、より実践的なスキルを習得できる点が魅力的であった。さらに、先生の説明は丁寧で分かりやすく、疑問点もその場で解消できたため、安心して学習を進められた。ペアワークやグループ活動も多く取り入れられており、仲間と意見を交換する中で、自然と理解が深まり、自分の表現を工夫する姿勢も養われた。これらの経験を通して、英語を使うことに対する抵抗感が薄れ、少しずつ自信を持って取り組めるようになったのは大きな成長であると感じている。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語力にまったく自信がなく、このレベルのクラスで本当にやっていけるのだろうかと不安でいっぱいだった。正直なところ、ついていけないのならクラスを下げてもらったほうが安心できるのではないかとさえ考えていた。しかし、実際に授業が始まると、クラスメイトが思いがけず優しく声をかけてくれ、拙い私の英語にも耳を傾け、理解しようとしてくれた。その温かさに触れ、次第に「もっと伝えたい」「もっと学びたい」という気持ちが芽生えていった。ライティングの課題では、間違いを恐れずに自分の考えを表現することの大切さを学び、リスニングでも要点をつかむコツを知ったことで、自分の成長を実感できるようになった。授業を終えた今では、当初の不安は挑戦への意欲へと変わり、英語を学ぶことが楽しいと心から思えるようになった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で学んだことは単に英語力だけではなく、チャレンジすること・国籍年齢関係なく相手を思いやることも学ぶことができた。この留学期間は私の人生においてとても大きな影響を与えるものになったと感じる。今後は、この経験を学業に生かし、より積極的に新しいことへ挑戦していきたい。特に、留学中に培った「相手を理解しようとする姿勢」は、学業だけでなく人間関係や将来の進路においても大きな力になると考えている。これからは英語力をさらに磨きつつ、異なる文化や価値観に柔軟に向き合える力を養い、より広い視野を持って学びを深めていきたい。そして、この経験を自分の成長にとどめず、周囲にも前向きな影響を与えられるよう努力していきたい。

学 年	G.T	派遣国	マレーシア
派遣大学	アジアパシフィック大学		
コース名	English Summer Camp		
期 間	2025 年 8 月 3 日～ 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

Asia Pacific University において私は Level 5 のクラスに配属された。レベルは 1 から 6 まであり、数字が上がるほど難易度が高くなる仕組みである。以下には、私が 1 か月間で経験した授業や課題、演習の内容について記す。なお、レベルごとに授業内容には差があると聞いているため、ここでの記述はあくまで私のクラスに限った経験である。

到着翌日に組分けテストを受けた。形式は Reading と Writing の 2 種類で、IELTS に似た出題であった。全体として内容はそれほど難しくなく、日本の大学入学共通テストにおける英語と同程度の水準だと感じた。

授業は月曜から金曜まで、10 時 30 分から 15 時 45 分まで行われ、午前に Speaking と Listening、午後に Reading と Writing が配置されていた。

Speaking ではクラスメイトのレベルが高く、授業内容も難易度が高かった。先生が提示するテーマについてディスカッションを行うほか、週 1～2 回のプレゼンテーションが課され、4 人グループで準備から発表まで英語のみで取り組んだ。この活動を通して、当初は台本を用意しなければ発表できなかったが、次第に少ない情報量のスライドを基に自分の考えを即興で表現できるようになった点に成長を感じることが出来た。授業中は必要に応じて先生から適切な指摘が入り、学びを深めることができた。

Listening は長文を聞き取り、その内容を問う形式で進められた。扱われる会話は日常的でありながら速さや情報量が多く、理解して回答することは難しかった。しかし、実際のコミュニケーションに近い訓練となり、リスニング力向上に効果があったと考える。

Reading については、日本での受験勉強の蓄積もあり比較的容易に感じた。授業では教科書を読み、語彙を調べ、設問に答える活動が中心であった。ただし特徴的なのは、問題演習の後に必ずグループで議論を行い、そのうえで答え合わせをすると

いう流れである。これにより、単なる読解にとどまらず、常に英語で意見交換を行う環境が整えられていた。

Writing ではエッセイの書き方を体系的に学んだ。課題として与えられたテーマを分解し、論点を整理して文章化する練習を繰り返した。ホテルに戻ってから執筆する課題も多く、英文ライティングの基本的なマナーやルールを理解する良い機会となった。さらに、Reading で得た語彙を活用できる場面が多く、学習の相乗効果を実感した。

全体を通じて、授業の構成は横浜市立大学の PE に近いと感じた。しかし最大の違いは、クラスメイトの多くが英語でしか意思疎通できないという環境にあった。この状況が自ら英語を使わざるを得ない空気を生み、学習効果を飛躍的に高めていたと総括できる。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

授業を通じて私は英語の四技能を総合的に鍛えることができた。まず Speaking においては、自分の考えを瞬時に組み立て、相手に分かりやすく伝える力が養われた。特にグループでのプレゼンテーションは、準備段階から英語で協議せざるを得ない状況を作り出し、語彙や表現の不足を仲間とのやりとりの中で補いながら対応する力を培う場となった。その結果、暗記に頼らずに即興的に話す姿勢が身についたと実感する。

Listening では、スピードの速い会話や長文を理解する練習を繰り返すことで、情報を一度で捉える集中力が鍛えられた。日常的な話題を扱いつつも高度な聞き取りを求められる形式であったため、実際の生活や交流に即した実践的な力を得られた。

Reading では、文章の理解そのものは比較的容易であったが、内容を他者と議論する過程を通じて、自分の理解を言葉にして共有する力が培われた。単に読解するのではなく、自分の考えを整理して相手に伝える練習となり、思考と言語表現を結び付ける点で有益であった。

Writing では、エッセイの構造を意識して論理的に文章を展開する方法を学んだ。序論・本論・結論の流れを意識することで、自分の主張を一貫性をもって示す力が身についた。また、授業で得た語彙をすぐに書き言葉で活用することができ、知識の定着につながった。

総じて、知識として得られたのは文法や語彙にとどまらず、英語を使って思考し、やりとりを成立させるための実践的な技能である。特に「伝える力」と「理解する力」が一体となって働く感覚を得られた点が最大の収穫であった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前の私は、英語での発話に大きな不安を抱いていた。特に即興で話すことに苦手意識が強く、正しい文法や語彙を思い出せなければ発言できないという気持ちが常につきまとっていた。そのため、英語を学ぶことに対して受動的な姿勢になりがちであった。

しかし実際に授業を受けてみると、クラスメイトの多くが自信を持って発言し、間違いを恐れずにコミュニケーションを取っていた。その姿勢に触発され、自分も完璧さを求めるのではなく、とにかく伝えることを優先するように気持ちが変化した。特にグループでのディスカッションやプレゼンテーションを重ねる中で、伝えようとする意欲が自分の表現を豊かにし、相手に理解してもらえる喜びが学習意欲を高めていった。

授業を終えた今は、英語を学ぶことに対して前向きで積極的な姿勢を持つようになった。以前のように不安が先立つのではなく、挑戦することで成長できるという実感が自信につながった。この心境の変化こそが、最も大きな成果であったと考える。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学で培った英語力を、今後の学業に積極的に生かしていきたいと考える。特に、授業を通じて得た「即興で伝える力」や「論理的に文章を構成する力」は、大学での発表やレポート作成に直結する技能である。

また、グループワークを通して学んだ協働的な姿勢は、ゼミ活動や共同研究の場面でも役立つと考える。今後は英語文献の読解や英語での議論に積極的に取り組み、学習を日常的に継続することで実力をさらに高めたい。

最終的には、学業の枠を超えて国際的な場で自分の考えを発信できる力へとつなげていくつもりである。

YCU 第2クォータープログラム 派遣学生報告書

氏 名	S.N	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	マレーシア
派遣大学	アジアパシフィック大学		
コース名	English Summer Camp		
期 間	2025 年 8 月 3 日～ 2025 年 8 月 30 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

初日のクラス分けテストをもとにレベル 1 から 6 のクラスに分けられそれぞれのレベルに応じた授業が行われた。時間割もクラスによって少し異なるが、1 日のスケジュールは全体的に同じだった。8 時 15 分にホテルに迎えに来るバスが出発し、9 時ごろから 10 時まで自由に朝食等を済ませて、10 時から 12 時までの 2 時間 reading と writing の授業を行い、13 時 15 分までに昼食を済ませた後、speaking と listening の授業をさらに 2 時間異なる先生で行った。reading と writing の授業は異なる国の生徒でランダムにペアを組み問題を解いたりした。特に、writing の書き方の授業は丁寧に教えてもらったのが印象的だった。基本的な授業の仕方は先生が生徒に質問を投げかけて、生徒がそれに答える感じだった。海外の生徒はとても意欲的に意見を述べるので日本人の生徒も頑張っている人が多い印象を受けた。speaking と listening の授業は個人的に一番成長した授業だった。前日に言われた topic に応じた 1 分間スピーチや毎回ランダムで 4 人グループ程度で与えられたテーマについて考え、クラスの前でプレゼンする授業が多かった。また、1 か月の内に 2 回テストがあり、中間テストは 2 人でプレゼン資料を作った発表を行った。期末テストは 4 人でプレゼン資料を作って発表を行った。プレゼン資料作りが想像以上に時間に追われることが多く、ホテルに帰ってから寝るまでの時間を利用して作ることが多かった。1 か月全体を通して、課題が極端に多いというわけではないが 1 日のスケジュール的に授業が中心の日程だったと思った。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

1 か月という限られた時間の中で英語力を飛躍的に伸ばすというよりは、この 1 か月をきっかけに今後も継続的に英語学習を続けてほしいという先生たちの授業方針から感じた。単語などの知識を増やすというよりも、お互いの国の文化を紹介しあったり、発表したものに対して先生が訂正したりというようにアウトプット中心の授業でまんべんなくこれまでの英語の知識を復習できた。授業内でゆっくりおしゃべりをする機会も多かったのも、ほかの国の生徒とおしゃべりをして自然と知識が増えることもあった。とくにカザフスタンの生徒たちは日本に興味を持っている生徒が多く、日本の実生活について質問してくる生徒などもいて、考えるきっかけになった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

海外の生徒の授業に対する姿勢がとても積極的で日本の大学の授業にはない雰囲気だったので、もっと失敗を気にせずに積極的に授業に参加していんだという気持ちになった。海外の生徒が失敗を気にするなとよく言っていたので余計に気持ちが楽になった。先生たちも間違えてもチャレンジしたことに褒めてくれたり、むしろ発言しないことを注意されるくらいだったので改めて積極性の重要性を実感することができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

英語は時間をかけて慣れていくしかないなので、今回の 1 か月で学んだことを無駄にしないように毎日の英語学習を心掛けたいと思った。Toeic なども定期的受験しスコアを伸ばしていけるようにしたい。また、現地で知り合った国の生徒たちの国にも行ってみたい。